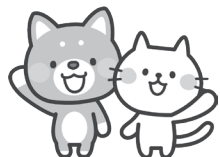


9月20日～26日は



動物愛護週間

です



動物の愛護と適正な飼養についての理解と関心を深めていただくため、9月20日から26日を動物愛護週間と定めています。

誰もが安心して過ごせるように、飼い主は適切な飼育をする必要があります。散歩中はリードを着用させ、放さないようにしましょう。必要以上にリードを長くしないことも大切です。また、散歩中にペットがしたフンの後始末ができるようにビニール袋などを持って散歩に行くと安心です。猫を飼っている人は、家の外に出さずに室内で飼うようにすると、事故や感染症、迷子になる危険から猫を守ることにつながります。

飼い主としての役割をしっかりと理解し、人間とペットが心地よい生活を送れるよう飼育しましょう。

日野町では、各種助成を実施しています。

- 野良猫の不妊・去勢手術費用の助成
- ガーデンバリア（猫よけ器）の貸し出し
- ガーデンバリア購入費用の助成

詳細は、役場健康福祉課までお問い合わせください。

※飼い猫の不妊・去勢手術費用、犬猫のマイクロチップ装着費用の助成事業は鳥取県獣医師会で実施されています。直接、鳥取県獣医師会（電話 0857-53-4300）へお問い合わせください。



9月より、野良猫の不妊・去勢手術費用助成の申請方法が変わりました。

▶**従来の申請方法** 手術前に申込み ⇒ 手術後に補助金の申請 ⇒ 補助金の交付

▶**9月以降の申請方法** 手術後に補助金の申請 ⇒ 補助金の交付

令和7年9月1日より、補助金の申請は「手術前」から「手術後」の申請となりました。

ただし、予算の範囲内での補助となりますので、事前にお電話等で助成を受けたい旨をご連絡ください。



10月より連携動物病院制度が開始します。

鳥取県では、一定の要件を満たす病院が「連携動物病院」に指定されています。連携動物病院には、依頼者が手術費用を負担することなく野良猫の不妊去勢手術を行うことが可能な病院もあります。

詳しくは、役場健康福祉課へお問い合わせください。

【問合せ先】役場健康福祉課（電話 72-1852）



まだまだ油断できない新型コロナ 最新ワクチンで備えを

日野病院 病院長 孝田 雅彦

日野病院の孝田雅彦病院長が、さまざまな病気や健康について、その予防法や健康に過ごすための豆知識などお役立ち情報をお届けします。

記録的な猛暑だった夏もようやく落ち着き、朝晩は過ごしやすくなつてまいりました。一方で、「夏の疲れがなかなか抜けにくい」と感じている方もいらっしゃるのではないのでしょうか。体調が変化しやすいこの時期、冬に向けてインフルエンザや新型コロナウイルスなどの感染症への備えを始めることが大切です。

特に新型コロナウイルスについては、これまで国が行ってきた接種費用の全額助成（公費負担）が昨年度で終了となりました。今後の接種は、インフルエンザワクチンと同様に自己負担が生じます。費用がかかるなら……とためらう気持ちもあるかもしれませんが、ワクチンは健康と命を守る、最も有効な手段です。最新の情報をもとに、改めて冬の感染症対策について考えてみましょう。

新型コロナウイルスは、今も「注意すべき感染症」です

「新型コロナも、もうただの風邪でしょうか？」という声も聞かれます。しかし、本当にそうでしょうか。新型コロナウイルス感染症は、決して「ただの風邪」では

ありません。特に高齢の方や持病のある方にとつては、今もなお重症化のリスクが高い感染症です。30代の患者さんの重症化率を1とすると、50代では約10倍、60代で約25倍、70代で約47倍、そして80代では70倍以上にも達します。年齢を重ねるほど、肺炎を起こして入院や酸素投与が必要になる可能性が高まるのです。

また、慢性の肺の病気（COPDなど）や心臓、肝臓の病気といった基礎疾患（持病）がある場合も、重症化のリスクが高まるということが分かっています。死亡率は季節性インフルエンザの1.5倍から2倍にのぼり、決して油断はできません。

今年の新型コロナウイルスはここまで進歩しています

新型コロナウイルスは、ウイルスの変化に合わせて毎年新しく開発されています。今年の秋（10月以降）に接種が始まるワクチンは、現在流行している最新の変異株に対応したものです。日野病院では、皆様の状況に合わせて選んでいただけるよう、特徴の異なる2種類の

ワクチンを準備しています。
①ファイザー社製「コミナティ」（従来型のmRNAワクチン）

世界で最も広く使われてきた、実績豊富なワクチンです。これまでに世界で何億回と接種されており、感染予防・重症化予防の効果が非常に高いことが多くのデータで証明されています。日野町でもこれまで多くの方が接種されてきました。これまでと同じ種類のワクチンで安心したい方や世界的に接種実績が豊富なワクチンを選びたい方にお勧めです。

②武田薬品製「ヌバキソビッド（通称：ノババックス）」（組換えタンパクワクチン）

昨年から国内で使えるようになった、新しいタイプのワクチンです。新しいといっても、その製造技術はB型肝炎ワクチンなどで長年使われてきた実績のあるものです。最大の特長は、ファイザー社製ワクチンと比較して、発熱などの全身性の副反応が少ないと報告されている点です。海外の報告では発熱は10%未満とされ、倦怠感なども軽い傾向にあります。また、免疫効果が

より長く、一年続くと報告されています。接種後の発熱や体調不良が心配な方、副反応をできるだけ軽く済ませたい方や効果の長いことを望まれる方にお勧めです。

どちらのワクチンも、ウイルスの感染や重症化を防ぐ効果は同等です。ワクチンの価格（薬価）もほぼ同じで、自己負担額に違いはありません。どちらを選べばよいかわ迷われた際は、医師にご相談ください。

今年の冬も、新型コロナウイルスとインフルエンザの同時流行が心配されています。ワクチン接種は、これらの感染症にかかった際の重症化を防ぐ最も有効な手段です。自身の体を守ることは、同居する家族や、地域で交流する友人たちを感染から守ることに直接つながります。60歳以上の方、および基礎疾患をお持ちの方は、今年もぜひ新型コロナウイルスワクチンを接種してください。接種には一部自己負担が生じますが、それは万が一の重症化による入院や治療のリスクを考えれば、自分と社会のための「健康への投資」と言えるでしょう。